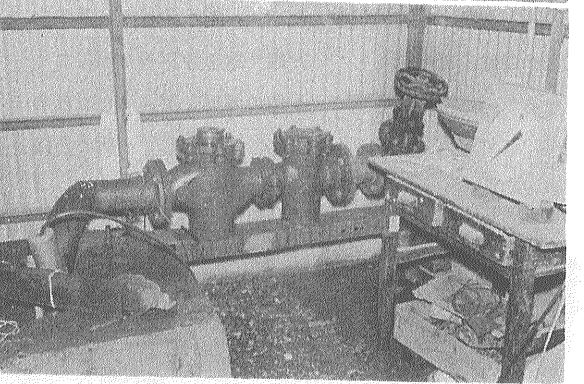
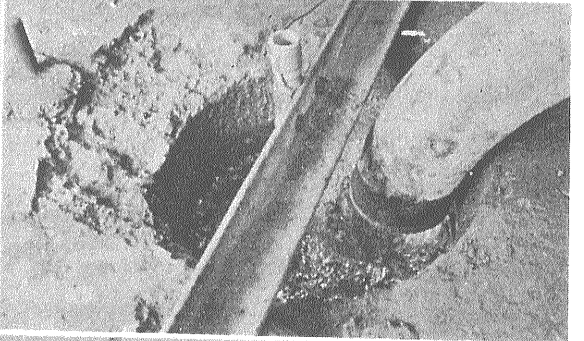
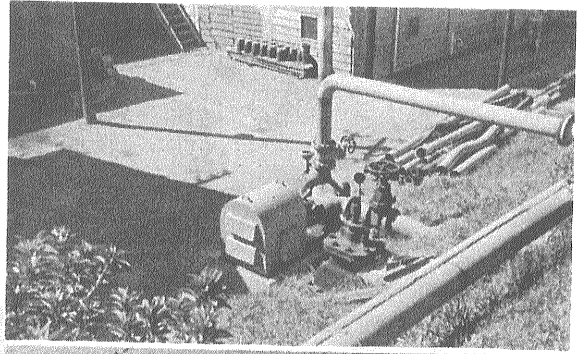


アメリカ合衆国のカリフォルニア州の実施例にならって 工業技術院 特別研究費で 徳島県旧吉野川流域で 1955年～56年にわたり 地表水を加圧注入し 小規模な 実験を行なった。

- ・石上から・トービスのサービスで運転中の 100 HP の加圧力用ポンプ
- ・東京保土谷化学工業の冷却排水 地下還流試験
- ・同上 注入井の周囲

東洋レーヨン瀧田工場の冷却排水圧入 3 号井



湾に臨む Kuwait などに 日量 10,000m³ 級のものが稼動している。

海水の淡水化

海水はふつうの場合 35,000ppm の塩分を含んでいる したがって 一般の工業用水の常識からすると 少なくとも その塩分を 1/35 以下にしなければなるまい。

このためには 蒸溜プラントを用いる蒸溜法によって 淡水化するのが 一番経済的であるという 多段式プロセスによって 1,000 ガロン当り 1 ドルぐらいでできる 燃料源として 将来原子力エネルギーの利用が期待されるが すでに 現在カリブ海に面した Aruba とかペルシ

塩分が相当程度稀釈されている塩水から淡水をつくる場合には 電気浸透プラントによる電気浸透法が経済的だと考えられる。 ペルシヤ湾岸やアメリカ合衆国で日量 10 数 m³ ～ 数 100 m³ の規模で淡水化を行なっているのが この方法を用いている。 もっとも大きい南アフリカ連邦の例では 日量 10,000 m³ 近い規模という。

イオン交換と熱 あるいは電気プロセスとを組み合わせた方法 あるいは 工業技術院の特別研究費によって研究された馬野式冷凍法 さらに機械力を用いる方法などが少量のエネルギーで淡水化できるという点から 技術の開発が期待される。